

1. 特別報告 <依頼中>

基本テーマ・副題を具体化した特別報告は、今実行委員会として政治と経済の二つの分野で交渉を進めています。

2. 分科会

【1】分科会名：「安倍改憲」の息の根を止め、憲法を生活に生かす！

・設置責任者：金子勝(立正大学分会)・中野貞彦(武蔵野通研分会)

・連絡先：s.nakano@d012.dant2.jp(中野)

・設置趣旨：参議院選挙で野党共闘の力が、改憲勢力の2/3議席占有を阻止した。しかし、今回投票率は50%を下回り、民主主義の機能が危ぶまれる。しかも安倍首相は「改憲」を諦めてはいない。「安倍改憲」の息の根を止め、憲法を生活に生かしていくためには、多くの課題があり、そのために私たちは「不断に努力」していかなければならない。本分科会は、市民と一緒に分かり安く憲法を語り合う場としたい。

なお、憲法九条発案者と言われている幣原喜重郎の生誕150周年を記念して大阪府門真市の市民が中心になって映画「しではら」を制作、また東京では羽村市の市民が映画「五日市憲法」を制作。展示会場で、2つの映画を上映しますのでぜひ、ご覧ください。

【2】分科会名：被爆75年、2020年を前にした「核兵器のない世界」への課題と展望

・設置責任者：梶原渉(一橋大学分会)

・連絡先：kajyan@antiatom.org

・設置趣旨：2020年は被爆75年という節目の年であるばかりでなく、核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれ、核兵器禁止条約の発効も見込まれる、非常に重要な年になろうとしている。2020年を目前に控えた本分科会では、核兵器禁止・廃絶をめぐる現状を確認した上で、市民社会が果たすべき役割を議論したい。特に今年の分科会では、科学者運動の一環として核兵器禁止・廃絶に取り組むことのそもそもの意義や担い手の世代継承についても議論したい。

【3】分科会名：戦争と文学について考える交流会

・設置責任者：風見梢太郎（武蔵野通研分会）

・連絡先：kazami@big.or.jp

・設置趣旨：安倍政権が日本を戦争に巻き込む動きをますます強める中、過去の戦争の悲惨さを広く国民に向けて語ることは、危険な動きを阻止する上でとても大切なことです。文学の中に語られた過去の戦争は、その実相を生々しく伝え、私たちの心を強く揺さぶります。小説に描かれた戦争の悲惨さを語り合う機会があればと考え、この分科会を設置いたします。日本文学の中の過去の名作とともに、最近の話題作、カズオ・イシグロの描いた戦争責任、村上春樹の描いた戦争、能島龍三の『遠き旅路』（「しんぶん赤旗」連載）にもふれた報告（話題提供）を中心に交流したいと考えています。

【4】分科会名：今、あらためて科学は平和のために一軍学共同の現段階と今後の展望を探る

・設置責任者：浜田盛久（神奈川支部）・小寺隆幸（個人会員）・多羅尾文徳（東京農工大分会）

・連絡先：tarao@cc.tuat.ac.jp（多羅尾）

・設置趣旨：日本学術会議は2017年3月、「軍事研究を行わない」という趣旨の1950年、1967年声明を継承する新声明「軍事的安全保障研究に関する声明」を幹事会決定した。新声明が学界に与えた影響は大きく、2018年度以降、防衛装備庁の「安全保障技術研究推進制度」への大学からの応募・採択数は激減した。一方、公的研究機関や企業からの応募・採択数が増えており、本制度を梃として、日本社会に軍産学複合体が形成されていくことが懸念される。本分科会では、軍学共同をめぐるこのような新しい状況の下で、大学のあり方や科学者の社会的責任など、今後の展望を議論する。

【5】分科会名：ヘイト・スピーチを許さない——地方自治体に何ができるか

・設置責任者：前田 朗（東京造形大学）

・連絡先：maeda@zokei.ac.jp

・設置趣旨：マイノリティに対する差別と排外主義が強まり、ヘイト・スピーチが社会問題として注目を集めた。2016年にはヘイト・スピーチ解消法が制定され、「ヘイト・スピーチを許さない」と明記されたが、「理念法」であって具体的な施策は示されず、地方自治体に委ねられた。国立市、京都府、京都市、神戸市、川崎市など各地の自治体では、人権条例、ヘイト・スピーチ条例、適用のためのガイドライン策定等が進められている。そこで差別とヘイトを許さないために自治体には何ができるのか、何をすべきなのか検討する。

[6]分科会名:次世代につなぐ平和・共生と女性研究者・技術者 Part 3—女性研究者・技術者の現代の困難をどう乗り越えるか?—

・設置責任者:中島明子(J分会)

・連絡先:mamanotanuki@yahoo.co.jp

・設置趣旨:これまでの分科会テーマ、「次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者」を、今回も引き継ぎます。第1部は女性大学院生・若手の研究発表を行い、より多様で豊かな女性研究者の発展を期待する場にします。第2部では、昨年実施した女性会員アンケートをふまえ、女性が抱える困難—特に2000年あたりを契機とした不安定雇用の増大や環境の変化について、その実態や背景と要因を深め、それを乗り越える協同のあり方を考えたいと思います。

[7]分科会名:院生・若手 小さな冬の学校

・設置責任者:葛西洋平(明治大学分会)、吉村さくら(中央大学院生分会)

・連絡先:fire_water0128@yahoo.co.jp(葛西)

・設置趣旨:本分科会では、院生・若手会員の研究報告、研究交流を行う。現在、東京支部全体の院生企画は院生幹事が行っているが、研究交流は修論報告が中心になっている。本分科会では、博士課程以上の院生・若手会員の研究報告の機会を設けることで、より院生・若手会員間の研究交流を活発化させる一助としたい。

[8]分科会名:Post3.11 研究会—3.11と復興を考える—

・設置責任者:葛谷泰慣(明治大学分会)

・連絡先:xenon1516@gmail.com

・設置趣旨:あの“3.11”から8年が経過した。来年に東京オリンピックを控えるがその華々しさの背後には、期限が迫りつつも今も仮設住宅に暮らさざるを得ない人々の存在や、福島第一原子力発電所は「アンダーコントロール」だとして招致した事実が横たわる。フクシマの原発事故とは何だったのか、どのような影響が出ているのか。“3.11”の後立ち上がり、大学院生をメンバーとして、それぞれの研究テーマや関心と絡めて“3.11”と今を追い続ける研究会が私たち post3.11 研究会です。

[9]分科会名:災害問題分科会

・設置責任者:中山俊雄(都立研分会)

・連絡先:otto.nakaya@gmail.com

・設置趣旨:2018年は災害の年であった。西日本豪雨災害、大阪北部地震、北海道胆振東部地震など、日本各地で災害が発生した。災害は、自然現象とその時の社会状況の下で発生する。したがって災害現象は”進化する”。2018年の災害を分析し、東京、首都圏の防災のあり方を議論する。

【10】分科会名：科学・技術の現状批判 ―日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part13―

・設置責任者：長田好弘(武蔵野通研分会)・酒井士朗(武蔵野通研分会)

・連絡先：ssakai@jcom.home.ne.jp(酒井)

・設置趣旨：地震・火山噴火・豪雨災害、輸送・電力・通信で多発する事故、サイバーセキュリティ、ネット利用犯罪の重大化への対応をはじめ、わが国の科学および技術は基礎から応用までつりあいのとれた発展(科学の創造と総合化)が求められている。官邸主導の科学技術振興の現状は、本来の大学のあり方を破壊しつつ「科学技術イノベーション戦略」を推進する「大学の企業化」であり、米軍と一体となった軍装備の高度化・軍需産業の育成である。大学・研究機関および民間企業の研究者・技術者の連帯の条件は広がっている。要求と闘い、社会的責任と役割、国民との共同などについて、広く議論、交流する場としたい。

【11】分科会名：科学・技術サロン―日本の科学・技術の現状とロマンを語る part12―

・設置責任者：長田好弘(武蔵野通研分会)・松永光司(武蔵野通研分会)

・連絡先：matsunaga_mitsushi@hotmail.com(松永)

・設置趣旨：この10年間ほど毎年のようにノーベル賞受賞の快挙にわくなく、突如として官邸主導による日本の「研究力低下」や「大学の危機」の議論が学術界を席卷する様相を示した。安倍政権はアベノミクス総破綻と国民生活破壊を覆い隠しつつ、なおも立憲政治破壊、極右化・ファッショ化への暴走をつづけている。これら二つの事柄について、国民はどのように受け止め理解しているのだろうか。安倍政権の罪悪を阻止するための市民各層と各専門分野の研究者の広範な協同を必要とするとき、学術の現状と国民生活についてさまざまな角度・視点から議論・交流を深めたい。

【12】分科会名：自然科学の進展を俯瞰する～この30年で何がどう変わったのか？

・設置責任者：青木和光(国立天文台分会)

・連絡先：aoki.wako@nao.ac.jp

・設置趣旨：自然科学の各分野で著しい進展がある一方、専門化が進んでいるため、科学者の中で必ずしもそれを共有しにくい状況があるのではないのでしょうか。各分野の専門家が集まる日本科学者会議の特色をいかし、ここ30年程度における進展を研究者個人の視点でみつめなおし、それを交流することで自然科学の潮流をつかむことを目標にします。分科会では、3人程度から「教科書が書き換えられた」「ある技術が研究を一変させた」といった事例の報告を受けたうえで、参加者にも各分野の状況を発言いただきます。

【13】分科会名:IT 技術と教育・労働・社会生活 Part 6

- ・設置責任者:酒井士朗(武蔵野通研分会)、矢作英夫(武蔵野通研分会)
- ・連絡先:myahagi@viola.ocn.ne.jp(矢作)
- ・設置趣旨:政府は新たな価値創出を図るとして、サイバーセキュリティ、IoTシステム、ビッグデータ解析、AI、などの強化を掲げている。近年、個人情報への漏洩や不正利用、防犯カメラの急増、振り込め詐欺・ネット犯罪、IT・AIによる合理化と労働強化などの問題が顕在化している。本分科会は、各分野でのIT化の現状と課題、とりくみの経験を交流し、国民のためのIT技術のあり方を考える連帯の場としたい。

【14】分科会名:リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流(part3)

- ・設置責任者:長田好弘(武蔵野通研分会)・中野貞彦(同前)・橋本良仁(高尾分会)
- ・連絡先:s.nakano@d012.dant2.jp(中野)
- ・設置趣旨:日本科学者会議「声明」(2014.7.15)が指摘したリニア中央新幹線計画の重大な欠陥は、国・JR東海が工事を強行するほどに次々と現実のものとなってきている。トンネル工事に起因する水資源・残土処理・振動・騒音・大気質劣化、大深度地下法適用と酸欠気泡発生、ヒ素・フッ素・ウランを含む残土の発生…。認可取り消しと環境再評価をすべき事態である。裁判では、いま原告適格性が争われている。全国民が原告適格を有するとの原告の主張を国民的議論に乗せるべく交流の輪を広げていきたい。

【15】分科会名:現代日本資本主義の性格と変革の課題

- ・設置責任者:村上研一(中央大学分会)
- ・連絡先:murakami@tamacc.chuo-u.ac.jp
- ・設置趣旨:今日の日本経済は、電機産業などの競争力低下や産業空洞化に加え、少子化・人口減少や個人所得の低迷に起因して内需も停滞している。こうした中、投資が停滞する中で、大企業の収益は増大する一方、格差・貧困は確実に広がっている。この分科会では、現代日本資本主義の性格をどのように把握するか、また、格差・貧困を是正してより多くの人々の豊かな生活を実現するためにどのような変革が必要なのか、議論を深めていきたい。

【16】分科会名:「働き方改革」を打ち破り労働者の権利の拡充を

- ・設置責任者:米田貢(中央大学分会)
- ・連絡先:myoneda@tamacc.chuo-u.ac.jp
- ・設置趣旨:アベノミクスの成長戦略の根幹には、労働者を無権利状態にする「規制緩和」=「働き方改革」がある。政策的に大量に創出された非正規労働者ばかりではなく、正規労働者や労働組合に結集している大企業労働者までもが、生活苦に喘いでいる。普通に働けば普通の暮らしができる状況をどうやって確立するのか。「ファンド規制と労働組合」研究会の経験を踏まえて、研究者と労働組合関係者との共同の討議を深めたい。

【17】分科会名：現代日本における教育と貧困の関係を問う

・設置責任者：中村清二（大東文化大学）

・連絡先：nacamuraiseiji@gmail.com

・設置趣旨：1995 年の日経連の「新時代の日本的経営」以来の雇用破壊と新たな低賃金構造の創出、さらには安倍政権の進める「働き方改革」によって、現代日本の貧困問題は深刻化している。教育の現場では、生活に必要なカロリーの大部分を学校給食に頼らざるをえない児童の増大が問題視されている。子どもに 3 度の食事すら与えることができない家庭で、子供たちはどのように、人間として成長していくことができるのか？教育の現場に現れている貧困問題の実態を解明し、すべての子どもの発達のために必要な基本的条件を考える。

【18】分科会名：平和な時代を拓く

・設置責任者：東京支部

・連絡先：20th-kagaku@jsa-tokyo.jp

・設置趣旨：核兵器禁止条約の国連採択以降、核兵器全廃もとめる国際世論はますます大きくなっているが、安倍政権は背を向けつつけている。朝鮮半島情勢は米朝首脳会談の断続的な開催の一方、北朝鮮のミサイル発射や、韓国との徴用工問題など歴史問題を背景に、複雑で再び緊張を増している。国内では安倍首相は憲法 9 条改憲に執着し、大軍拡を進め、研究者の軍事研究への動員も引き続き強めている。首都圏では横田基地へのオスプレイ配備が強行され、海外戦闘体制の一環として自衛隊入間基地では後送病院建設が進められている。沖縄米軍基地問題も日本国民全体の問題として重大である。いま安保条約、日米地位協定のもとで脅かされる平和の実態をつかみ、国民的な連帯での平和への道をさぐる。

分科会の設置/分科会発表募集と予稿の提出

新たな分科会設置申込も下記期限内において受けつけます。

設置責任者は、分科会への発表論文応募を積極的に働きかけ、期限を厳守してください。

①各分科会への発表申込み

設置責任者宛てに原則として電子メールで申し込み下さい。申込用紙は次頁にありますが、日本科学者会議東京支部ホームページ(<http://jsa-tokyo.jp/>)からもダウンロードできます。

申込先：各分科会設置責任者（上記「2. 分科会」にある設置責任者の「連絡先」欄を参照）

発表申込の締切日：10月5日（土曜日）＜厳守＞

②予稿の提出

予稿は、A4判2ページ以内で、テンプレートで形式を統一します。（原則としてWord使用）統一形式のテンプレートは、日本科学者会議東京支部のホームページにあります。

送付先：20th-kagaku@jsa-tokyo.jp 予稿ファイルをメールに添付下さい。

予稿の提出締切日：10月25日（金曜日）＜厳守＞

3. ポスターセッションの募集

統括設置責任者：日本科学者会議東京支部事務局

設置主旨：東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。また関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

4. 展示（シンポジウム期間中開催）

【1】日中友好と歴史認識のための展示 ＜依頼中＞

【2】日本・キューバ友好の展示とイベントーキューバに関する知見や文化を紹介！

多面的にキューバを体験してください！＜依頼中＞

【3】日本と朝鮮半島の友好のための展示

【4】憲法九条を守る科学者の取り組みについての展示 ＜依頼中＞

【5】市民制作の2本の映画「しではら」と「五日市憲法」上映

5. プレ企画イベント

プレ企画イベント

今回も、「東京科学シンポジウム記念囲碁大会」を計画しています。

日時：11月3日（日・祝日）、10:00～16:00

会場：武蔵野市西久保コミュニティセンター

囲碁プロ棋士による指導碁もあります。詳細は検討中。

連絡先：myahagi@viola.ocn.ne.jp（矢作英夫）

6. 開催20回特別企画

東京科学シンポジウムの第20回の開催を記念した企画です。

音楽会（「平和のためのコンサート」）を検討中。

7. シンポジウム会場&懇親会

会場：中央大学・多摩キャンパス（東京都八王子市東中野 742-1）

詳しくは <http://www.chuo-u.ac.jp/access/tama/> を参照下さい。

懇親会：11月30日（土）17時30分～ 中央大学・多摩キャンパス

8. 開催日程（会場の都合で一部変更となる場合があります）・参加費

11月30日（土）	09:30～10:00	受付
	10:00～12:15	分科会1
	13:15～17:15	特別報告
	17:30～	懇親会
12月1日（日）	10:00～12:15	分科会2
	13:15～15:30	分科会3
	15:45～18:00	分科会4

	参加費	懇親会費
一般	2,000円	3,000円
院生・学生	1,000円	1,000円

※会員・非会員の区別はありません

※参加費には予稿集代を含みます

第20回東京科学シンポジウム 分科会発表申し込み用紙

2019年__月__日 (受付番号_____)

名 前 (ふりがな)	()
住 所	〒
連 絡 先	TEL : E-mail :
希望分科会名	
タイトル	
著 者 名 (所属 or 肩書き)	()

概 要 (200字～400字)

--

(注) 原則としてeメールで申込みください。上記書式を用いず、必要事項を明記した text 送信も可。
必要事項：申込者氏名(フリカナ)・住所・連絡先(電話, e-mail)・発表希望分科会・論文題名・著者名・所属 or 肩書き・論文概要(200～400字) (eメールが不可能な場合、郵送・Fax 申込みも可)

第20回東京科学シンポジウム実行委員会

青木和光(支部常任幹事)、江川章(支部幹事)、葛西洋平(支部常任幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、○佐久間英俊(支部常任幹事)、土肥有理(支部幹事)、中島明子(支部常任幹事)、中野貞彦(支部常任幹事)、中村清二(支部幹事)、真嶋麻子(支部幹事)、松尾一郎(支部幹事)、松永光司(支部代表幹事)、村上研一(支部幹事)、森原康仁(支部常任幹事)、吉村さくら(支部常任幹事)、◎米田貢(支部事務局長)

◎：実行委員長、○：実行委員会事務局長

日本科学者会議東京支部 第20回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階

Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 20th-kagaku@jsa-tokyo.jp